

授業科目	理学療法概論	科目担当者	野口 敦
学年	1年	学期/時間数	前期 / 45時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	理学療法概念や歴史を学び、活躍場面や取り巻く環境などを講義する。具体的には理学療法の対象および役割、そして求められる要素を理解して、理学療法士の使命を把握する。 また ICT を活用して理学療法士として必要な知識を収集してまとめ、グループ討議を行い、プレゼン発表を行う。積極的なディスカッションを行い、医療施設や介護施設、障害者スポーツ場面での理学療法の興味や知識を深める。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①「理学療法とは何か」を説明できるようになる。 ②関連性の多い多職種の説明できるようになる。 ③課題に対して、積極的なグループ討議をして知識を深める。 ④授業や学外演習、施設見学等を通して、自分自身の理学療法士像を描けるようになる。		

授業計画	内 容		
第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	グループ発表
第 2 回	車いすテニス (Japan Open 2024) 見学	第 17 回	理学療法士に求められる要素
第 3 回		第 18 回	施設見学
第 4 回	理学療法とは	第 19 回	
第 5 回	理学療法の職域、理学療法士の協働職種	第 20 回	ハラスメント
第 6 回	労働対価と社会保険	第 21 回	記録・報告
第 7 回	日本リハビリテーション発祥地記念館 見学	第 22 回	医療事故・感染予防
第 8 回		第 23 回	障害受容、まとめ
第 9 回	世界の理学療法		
第 10 回	ICF と ICIDH		
第 11 回	ICF 事例 演習		
第 12 回	理学療法評価		
第 13 回	グループワーク 課題に提示・資料作成		
第 14 回	グループワーク 資料作成・討論		
第 15 回	グループワーク 資料作成・討論		
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 60%、見学レポート 30%、プレゼンテーション 10%		
準備学習	教科書を事前に目を通す。課題に対してはインターネット等の媒体で事前に調べておく。		
事後学習	施設見学後のレポートを作成する。		
教科書	庄本 康治 編：「PT・OT ビジュアルテキスト理学療法概論第 1 刷」羊土社		
参考書			
オフィスアワー	火、水、金曜日の 16:30~17:30、職員室 メールアドレス：noguchi@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	理学療法の歴史から定義、臨床場面における基本となる構成概念を講義・演習を行う。 また、課題に対してグループ調査から発表までを積極的な討議ができるようにアドバイスする。 どのような理学療法士が臨床の現場、患者様から求められているのかを授業を通して伝えていく。		

授業科目	理学療法研究入門	科目担当者	野口 敦
学年	3年	学期/時間数	前期 / 45時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	①適切な理学療法を探索するための研究方法を学ぶ。 ②理学療法における興味ある分野・領域の研究論文を検索・読解する。 ③医療統計の基礎を学ぶ。 ④論文作成や学会発表におけるマナーを学び、実際にポスター発表を行う。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(ポスター発表)		
到達目標	①理学療法における研究の意義を理解できる。 ②適切なキーワードを用い、興味ある分野・領域での文献検索ができる。 ③研究に必要な統計学手法を選択できる。 ④学会等における口述発表、ポスター発表の方法を学び、ポスター発表のための一連の流れを修得できる。		

授業計画	内 容		
第1回	研究の意義、目的	第16回	ポスター発表・口述発表の方法
第2回	研究テーマを探す、先行研究の検索	第17回	抄録およびポスターの作成
第3回	研究デザイン	第18回	
第4回	PECO と PICO	第19回	
第5回	測定データ収集のための知識	第20回	
第6回	研究計画書の作成	第21回	
第7回	記述統計学と推測統計学、尺度水準	第22回	ポスター発表
第8回	2つの変数の解析手法	第23回	
第9回	グラフ・表の作成		
第10回	結果の解釈		
第11回	3つ以上の変数の解析手法		
第12回	グラフ・表の作成		
第13回	結果の解釈		
第14回	文献抄読 (演習)		
第15回	抄録・論文の作成		
成績評価の方法 [評価項目と割合]	ポスター発表および内容 70% 抄録提出および内容 30%		
準備学習	統計学を再度学習し、教科書を事前に目を通す。		
事後学習	論理的に文章にまとめ、伝えることができるように文献をしっかりと読む。 ポスター発表のためのデータの収集方法を検討する。		
教科書	配布資料		
参考書			
オフィスアワー	火、水、金曜日の 16:30~17:30、職員室 メールアドレス: noguchi@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	エビデンスに基づいた理学療法研究の手法を学ぶ機会とする。		

授業科目	理学療法卒業演習	科目担当者	中野浩志・大島秀明・矢原友成 竹本美咲・野口敦・市木里佳
学年	3年	学期/時間数	後期 / 90時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	3単位
授業の概要と方法	理学療法の基礎知識と専門知識を整理することで国家試験対策としても重要な意味を成している。 よって、定期的に国試関連試験を行い、その到達度を確認する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	卒業を判定する国試実力試験に向けての勉強方法を確立し、国家試験に合格するレベルまで達する。		

授業計画	内 容
第1回	国家試験オリエンテーション
第2回	個人学習の勉強方法について
第3回	基礎知識の記憶（共通科目）
第4回	基礎知識の記憶（専門科目）
第5回	基礎知識の理解（共通科目）
第6回	基礎知識の理解（専門科目）
第7回	グループ学習の勉強方法について
第8回	系統別学習に対するオリエンテーション
第9回	応用力の向上（運動器）
第10回	応用力の向上（中枢・神経筋）
第11回	応用力の向上（呼吸・循環器）
第12回	実地対策
第13回	苦手分野対策（共通科目）
第14回	苦手分野対策（専門科目）
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	適宜実施する国試関連試験の結果を基に総合的に評価する。
準備学習	不明な時は指導教官に尋ね指導を仰ぐようにすること。
事後学習	不明な点が出た際には、その都度解決すること。
教科書	医療情報科学研究所：「クエスチョン・バンク理学療法士 国家試験問題解説 共通問題」メディックメディア 医療情報科学研究所：「クエスチョン・バンク理学療法士 国家試験問題解説 専門問題」メディックメディア 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学」医歯薬出版 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 専門基礎分野 臨床医学」医歯薬出版 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 基礎PT学」医歯薬出版 医歯薬出版：「理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント 障害別PT治療学」医歯薬出版
参考書	
オフィスアワー	随時可能
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	国家試験対策としての学習方法の指導を行う。

授業科目	理学療法管理学	科目担当者	大島 秀明
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	<p>国家資格を付与される理学療法士は、知識技術を提供する際にマネジメント能力が求められます。この授業では、職場で求められる管理業務である診療・介護報酬をはじめ、診療記録、他職種との業務調整、カンファレンス、安全管理、コンプライアンス、ハラスメントなど理学療法の職業管理と合わせて臨床教育の基本についても学びます。授業はパワーポイントを用いプレゼンテーションを中心に講義形式で学習する。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保険・介護保険制度を基に診療・介護報酬について説明できる。 2. 理学療法実施における書類管理、機器安全管理、および多職種との業務連携等を説明できる。 3. 人事考課、労務管理について説明できる。 4. 理学療法士に求められる職業倫理としてコンプライアンス、法令違反等の説明ができる。 5. 理学療法士養成教育の歴史、内容および臨床実習・臨床教育の方法について説明できる。 		

授業計画	内 容
第1回	管理学について（概要）
第2回	病院の分類・組織と関連法規について
第3回	医療・介護制度と報酬（診療・介護報酬）について
第4回	理学療法実施後の記録・書類の管理について
第5回	医療スタッフ間の業務連携、カンファレンス、各種勉強会について
第6回	理学療法機器の保守点検・安全管理、配置計画について
第7回	人事考課、労務管理について
第8回	コンプライアンス、法令違反、医療広告ガイドラインについて
第9回	ハラスメントについて
第10回	理学療法教育の歴史、内容について
第11回	他職種(看護学科・作業療法学科)との連携① 患者の理解
第12回	他職種(看護学科・作業療法学科)との連携② 支援と治療
第13回	他職種(看護学科・作業療法学科)との連携③ まとめ発表
第14回	臨床教育（実習）の方法および評価、感染症予防・対策について
第15回	職域の現状と今後の方向性（これから期待される理学療法の領域）
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）90%、課題・レポート10%
準備学習	理学療法概論で学んだ内容に関連する単元を確認すること
事後学習	授業で配布するプリントを復習しておくこと
教科書	齋藤 昭彦・下田 信明 編集：「PT・OT ビジュアルテキスト リハビリテーション管理学」羊土社
参考書	
オフィスアワー	月・火曜日の16:00～17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、病院における新人教育、中堅者教育、労務、コンプライアンス、ハラスメント、多職種連携を含む管理を経験している。

授業科目	理学療法評価学 I	科目担当者	中野 浩志
学年	1 年	学期/時間数	前期 / 45 時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	理学療法評価の基本的な考え方や基礎的な検査方法の理解を深めていく。 評価とは何か、何のために評価するのか、障害とは何か、しっかりと考えながら実践に取り組めるよう講義を進めていく。 必要に応じ実技を交えながら進める。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①理学療法評価の意義・目的を理解できる。 ②学習した検査・測定を健常者に的確に実施できる。 ③理学療法評価学Ⅱ・各疾患別の理学療法へとつなげることができる。		

授業計画	内 容		
第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	下肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/股関節 (実技演習)
第 2 回	理学療法評価法総論	第 17 回	下肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/膝関節・足関節 (実技演習)
第 3 回	一般的評価と形態測定	第 18 回	
第 4 回		第 19 回	体幹の関節可動域 (ROM) 測定の実際/頸部 (実技演習)
第 5 回	形態測定の実際/周計 (実技演習)	第 20 回	
第 6 回		第 21 回	体幹の関節可動域 (ROM) 測定の実際/胸腰部 (実技演習)
第 7 回	形態測定の実際/四肢長 (実技演習)	第 22 回	
第 8 回		第 23 回	まとめ
第 9 回	関節可動域 (ROM) 測定の定義と目的、留意点と記録法	第 24 回	
第 10 回		第 25 回	
第 11 回	上肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/肩甲帯・肩関節 (実技演習)	第 26 回	
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	上肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/肘関節・前腕・手関節 (実技演習)	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	下肢の関節可動域 (ROM) 測定の実際/股関節 (実技演習)	第 30 回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記 70%、実技 20%)、レポート 10%		
準備学習	事前に講義範囲の内容を教科書で確認しておきましょう。		
事後学習	講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょう。		
教科書	千住 秀明・他：「理学療法評価法第 3 版」神陵文庫		
参考書	松澤 正・江口 勝彦：「理学療法評価学第 6 版補訂版」金原出版		
オフィスアワー	水曜日の 16:00~17:00、職員室 メールアドレス：nakano@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした教育内容	臨床現場で多用する理学療法評価学について、実際の現場を想定し実技指導を行う。		

授業科目	理学療法評価学Ⅱ	科目担当者	中野 浩志
学年	1年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	3単位
授業の概要と方法	理学療法評価の基本的な考え方や基礎的な検査方法の理解を深めていく。評価とは何か、何のために評価するのか、障害とは何か、しっかりと考えながら実践に取り組めるよう講義を進めていく。実技時間も多く取りながら技術の習得を目指す。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①理学療法評価の意義・目的を理解できる。 ②学習した検査・測定を健常者に的確に実施できる。 ③各疾患別の理学療法へとつなげることができる。		

授業計画	内 容		
第1回	上肢帯の徒手筋力検査法 (MMT) の実際 (実技演習)	第16回	反射・反応検査の意義と実際/総論 (実技演習)
第2回		第17回	反射・反応検査の意義と実際/評価 (実技演習)
第3回	下肢帯の徒手筋力検査法 (MMT) の実際/股関節 (実技演習)	第18回	
第4回		第19回	
第5回	下肢帯の徒手筋力検査法 (MMT) の実際/膝関節・足関節 (実技演習)	第20回	協調性検査の意義と実際 (実技演習)
第6回		第21回	
第7回	体幹部の徒手筋力検査法 (MMT) の実際 (実技演習)	第22回	意識障害の意義と実際 (実技演習)
第8回		第23回	
第9回	感覚検査の意義と実際/総論 (実技演習)	第24回	疼痛評価の意義と実際 (実技演習)
第10回		第25回	
第11回	感覚検査の意義と実際/評価 (実技演習)	第26回	アライメント評価の意義と実際 (実技演習)
第12回		第27回	
第13回	筋緊張検査の意義と実際 (実技演習)	第28回	まとめ
第14回		第29回	
第15回	反射・反応検査の意義と実際/総論 (実技演習)	第30回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記 70%、実技 20%)、小テスト 10%		
準備学習	事前に講義範囲の内容を教科書で確認しておきましょう。		
事後学習	検査項目が多く1つ1つ理解するには日々の学習が大切です。分からないことがあればその都度解決するように心がけてください。		
教科書	千住 秀明・他 編：「理学療法評価法第3版」神陵文庫 津山 直一 訳：「新・徒手筋力検査法第10版」協同医書		
参考書	田崎 義昭・他 著：「ベットサイドの神経の診かた第18版」南山堂 松澤 正・江口 勝彦：「理学療法評価学第6版補訂版」金原出版		
オフィスアワー	水曜日の16:00~17:00、職員室 メールアドレス：nakano@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	理学療法評価学Ⅰ同様、臨床現場で多用する理学療法評価学について、実際の現場を想定し実技指導を行う。		

授業科目	動作分析学Ⅱ	科目担当者	中野 浩志
学年	2年	学期/時間数	前期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	運動学Ⅰ・Ⅱや動作分析学Ⅰで学ぶ身体のメカニズムについて、三次元解析装置、床反力計、筋電図を使用し、計測方法やその基礎理論、分析方法について学習する。またそれに必要な運動力学や数学的基礎、電気的解釈について講義する。身体運動におけるバイオメカニクスの姿勢・歩行の定量化について学ぶ。画像評価、映像評価について学習する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 三次元解析装置の基礎理論、解析内容について理解できる。 2. 床反力計の基礎理論、解析内容について理解できる。 3. 筋電図の基礎理論、解析内容について理解できる。 4. 各計測装置で計測できるパラメータについて理解できる。 		

授業計画	内 容
第1回	三次元動作解析装置について 総論と基礎知識
第2回	三次元動作解析装置について 計測方法指導
第3回	三次元動作解析装置について 演習①(計測)
第4回	三次元動作解析装置について 演習②(解析)
第5回	三次元動作解析装置について 発表
第6回	床反力計について 総論と基礎知識
第7回	床反力計について 計測方法指導
第8回	床反力計について 演習①(計測)
第9回	床反力計について 演習②(解析)
第10回	床反力計について 発表
第11回	筋電図について 総論と基礎知識
第12回	筋電図について 計測方法指導
第13回	筋電図について 演習①(計測)
第14回	筋電図について 演習②(解析)
第15回	筋電図について 発表
成績評価の方法 [評価項目と割合]	小テスト(50%)、発表・発表への取り組み(50%)
準備学習	計測するにあたり、基礎的な数学の知識として関数やベクトル、電位の内容理解が必要です。
事後学習	講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょう。
教科書	特になし。その都度、授業中に資料を配布する。
参考書	特になし。
オフィスアワー	水曜日の16:00~17:00、職員室 メールアドレス: nakano@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	主に運動器領域の動作分析や生体計測の実務経験を有する。その経験から、基礎的な内容理解や計測実践方法について指導する。

授業科目	動作分析学Ⅲ	科目担当者	中野 浩志
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	<p>脳血管疾患、脊髄損傷、整形外科疾患の動作を観察・分析し。結果をもとに問題点の抽出を行う。 講義資料を配布し、各疾患の動画や画像を視聴しながらグループディスカッション（GD）を行い考察する。</p> <p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/>グループワーク <input checked="" type="checkbox"/>ディスカッション <input type="checkbox"/>プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/>その他（ 動画視聴 ）</p>		
到達目標	<p>1 姿勢・歩行・基本動作の分析方法の基本概念を理解できる。 2 代表的疾患を有する患者の動作分析を行い、それらの結果を臨床的に解釈できる。 3 クリニカル・リーズニングに基づいた理学療法評価の流れを把握できる。</p>		

授業計画	内 容		
第 1 回	動作分析の進め方・動作分析の展開	第 16 回	脳血管障害の歩行に対する仮説立案（GD）
第 2 回	クリニカル・リーズニング	第 17 回	脳血管障害の歩行に対する評価項目（GD）
第 3 回	四肢麻痺の動作と分析	第 18 回	施設連携講義（総論）
第 4 回	四肢麻痺の動作と分析（GD）	第 19 回	施設連携講義（各論）
第 5 回	四肢麻痺の動作に対する仮説立案	第 20 回	下肢関節障害の動作と分析
第 6 回	四肢麻痺の動作に対する仮説立案（GD）	第 21 回	下肢関節障害の動作と分析（GD）
第 7 回	不全四肢麻痺の動作と分析	第 22 回	下肢関節障害の動作に対する仮説立案
第 8 回	不全四肢麻痺の動作に対する仮説立案	第 23 回	下肢関節障害の動作に対する仮説立案（GD）
第 9 回	脳血管障害の動作と分析	第 24 回	下肢関節障害の動作に対する評価項目（GD）
第 10 回	脳血管障害の動作と分析（GD）	第 25 回	上肢障害の動作と分析
第 11 回	脳血管障害の動作に対する仮説立案	第 26 回	上肢障害の動作と分析（GD）
第 12 回	脳血管障害の動作に対する仮説立案（GD）	第 27 回	上肢障害の動作に対する仮説立案
第 13 回	脳血管障害の歩行分析	第 28 回	上肢障害の動作に対する仮説立案（GD）
第 14 回	脳血管障害の歩行分析（GD）	第 29 回	上肢障害の動作に対する評価項目（GD）
第 15 回	脳血管障害の歩行に対する仮説立案	第 30 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）（90％） レポート課題（10％）		
準備学習	正常動作の理解、各疾患の特徴を理解しておきましょう。常に疑問を持ち、解決する努力を行いましょ。		
事後学習	講義中に説明した内容についてしっかり復習し、都度理解するよう努めましょ。		
教科書	石井 慎一郎 編：「動作分析 臨床活用講座」メジカルビュー Kirstein Gotz-Neumann 著：「観察による歩行分析」医学書院		
参考書	特になし		
オフィスアワー	水曜日の 16：00～17：00、職員室 メールアドレス：nakano@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	病院、クリニックでの臨床経験を活かし、各疾患における姿勢、動作についての観察、動作における仮説の立案、評価方法、力学的解釈を提供する。		

授業科目	運動療法 I	科目担当者	大島 秀明
学年	2年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	3 単位
授業の概要と方法	運動療法とは、身体機能障害や障害予防に対して、最も効果的な運動で高め回復させることを目的にしている。ここでは、基礎的知識、技術を習得することを目標におき、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。また運動療法Ⅱにおける応用治療に繋がるよう基礎的な理論的背景を十分に理解する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①運動療法に必要な解剖学、生理学、運動学などの基礎知識を身につけることができる。 ②運動療法に必要な理論を理解することができる。 ③基礎知識、理論をもとに実践し修得することができる。		

授業計画	内 容		
第 1 回	運動療法の概念	第 16 回	目的 理論 方法(演習)
第 2 回	歴史、定義、目的、方法	第 17 回	全身調整運動 (ポジショニング・良肢位)
第 3 回	関節可動域運動 総論	第 18 回	目的 理論 方法(演習)
第 4 回	目的 理論 方法	第 19 回	リラクゼーション
第 5 回	関節可動域運動 実際 (演習)	第 20 回	目的 理論 方法(演習)
第 6 回		第 21 回	神経運動器協調運動
第 7 回	関節包内運動	第 22 回	目的 理論 方法(演習)
第 8 回	目的 理論 方法(演習)	第 23 回	運動学習
第 9 回	ストレッチ	第 24 回	目的 理論 方法(演習)
第 10 回	目的 理論 方法(演習)	第 25 回	各種運動療法体操 (グループワーク)
第 11 回	筋力増強運動 総論	第 26 回	
第 12 回	目的 理論 方法	第 27 回	
第 13 回	筋力増強運動 実際(演習)	第 28 回	総括
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	筋・全身持久力運動	第 30 回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記 70%、実技 20%) 授業の積極的取組 10%		
準備学習	運動療法は理学療法の中で根幹をなす教科の一つです。興味を持ち基本的知識を修得し、知識だけでなく実際の臨床場面を想定し治療技術を修得する。そのために常に疑問を抱き、解決するため理論的に思索してください。		
事後学習	習得した実技を体現できるように練習をしてください。		
教科書	奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学 総論 第4版」医学書院		
参考書	授業の中で、適宜、資料を配布する。		
オフィスアワー	月・火・木曜日の 16:00～17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、在宅復帰までの運動療法を実技も含め実践的に提供する。また、各疾患に共通する基礎的な運動療法を中心に提供する。		

授業科目	運動療法Ⅱ	科目担当者	中野 浩志・野口 敦 矢原 友成
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	運動療法とは、身体機能障害や障害予防に対して、最も効果的な運動で高め回復させることを目的にしている。ここでは、運動療法Ⅰで学んだ内容を基盤として、現在、臨床現場で行われている特殊な理学療法アプローチを紹介する。また、その基礎的知識、技術を習得することを目標におき、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 特殊な運動療法の理論について説明できる。 ② 理論に基づき、実践することができる。 ③ 理学療法プログラム立案において、治療の一つとして選択できる。		

授業計画	内 容		
第1回	脳血管障害特殊テクニック① (野口) ファシリテーションテクニックの概要 (演習)	第16回	Mobilization (股関節) (演習) (矢原)
第2回		第17回	
第3回	脳血管障害特殊テクニック② (野口) PNF (演習)	第18回	
第4回		第19回	
第5回	脳血管障害特殊テクニック③ (野口) 起居動作、歩行へのアプローチ (演習)	第20回	Mobilization (膝関節) (演習) (矢原)
第6回		第21回	
第7回	脳血管障害特殊テクニック④ (野口) 課題指向型アプローチ (演習)	第22回	Mobilization (まとめ) (演習) (矢原)
第8回		第23回	
第9回	Mobilization (概論) (演習) (矢原)	第24回	Redcode exercise therapy ① 概論 (演習) (中野)
第10回		第25回	
第11回	Mobilization (基礎・原理) (演習) (矢原)	第26回	Redcode exercise therapy ② 評価 (演習) (中野)
第12回		第27回	
第13回	Mobilization (肩関節) (演習) (矢原)	第28回	Redcode exercise therapy ③ 治療 (演習) (中野)
第14回		第29回	
第15回		第30回	Redcode exercise therapy ④ まとめ (演習) (中野)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記 80%、実技 20%)		
準備学習	運動療法Ⅰの講義資料を復習してください。		
事後学習	その日のうちに疑問点を解決できるように復習を忘れずにしてください。		
教科書	奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学各論第4版」医学書院 配布資料		
参考書	細田 多穂・他 編：「理学療法ハンドブック改訂第4版」協同医書出版		
オフィスアワー	木曜日の16:10~16:30、職員室 メールアドレス：noguchi@tohaya.ac.jp, nakano@tohaya.ac.jp, yahara@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	急性期から生活期まで幅広い病期の実務を通して、在宅復帰までの運動療法を実技も含め実践的に提供する。また、臨床現場で行われている特殊な運動療法の理論と、さまざまな疾患におけるアプローチ方法について提供する。		

授業科目	物理療法	科目担当者	市木 里佳
学年	2年	学期/時間数	前期 / 60時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	3単位
授業の概要と方法	生理学的背景を基盤として講義を進め、物理療法の適応と禁忌を学習していく。 実際の機器を使用し、その方法や禁忌なども合わせて理解すること、また実技も合わせて行う。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①物理的刺激が生体に与える反応を生理学的に説明できる。 ②物理療法の重要性を理解して、適応・禁忌について説明できる。 ③物理療法機器の使用ができる。		

授業計画	内 容		
第1回	総論：物理療法の定義、分類、適応と禁忌	第16回	寒冷療法各論：実施上の注意点（演習）
第2回		第17回	光線療法総論：紫外線、赤外線、レーザー
第3回	総論：各種物理療法の生理学的効果と治療効果	第18回	
第4回	総論：病態の理解	第19回	電気刺激療法総論：物理学・生理学
第5回		第20回	
第6回	温熱療法総論：熱エネルギー、電磁波	第21回	水治療法：物理学・生理学（演習含む）
第7回		第22回	
第8回	温熱療法総論：音波	第23回	その他の療法、まとめ
第9回		第24回	
第10回	温熱療法各論（演習）：超音波	第25回	第29回
第11回		第26回	
第12回	第27回		
第13回	第28回		
第14回	第29回		
第15回	第30回		
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記70%、実技30%）		
準備学習	教科書を用いて、各療法の概論を中心に事前学習をしてください。		
事後学習	生体に物理的エネルギーを与えることで、様々な生体反応を期待して行う療法です。操作法を間違えれば医療事故にも繋がりますので、操作法は勿論のこと禁忌と適応をしっかりと理解するように学習して下さい。		
教科書	千住 秀明 監：「物理療法第2版」神稜文庫		
参考書	配布資料		
オフィスアワー	月～金曜日の16:10～17:30、職員室 メールアドレス：ichigi@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	各疾患における病態を説明して、生理的効果や禁忌事項を実技演習を通して理解度を上げていきたい。 どのような対象者にどの物理療法をどの程度提供し、どのような効果を期待するのかを考える機会とする。		

授業科目	義肢装具学	科目担当者	矢原 友成
学年	2年	学期/時間数	前期 / 60時間
授業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	3単位
授業の概要と方法	<p>装具、義肢とは何か。概要から代表的な装具、義肢を疾患も絡めて学んでいきます。また、より理解を深めるために動画視聴を交え講義を行います。</p>		
	<p>アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()</p>		
到達目標	<p>①義肢装具の定義や歴史及び目的が理解できる。 ②疾患に応じた的確な装具の選択、チェックアウトができる。 ③装具の製作実習を通して、構造や製作過程、適合判定などについて理解できる。</p>		

授業計画	内 容		
第1回	装具学総論	第16回	義肢学総論
第2回		第17回	股義足
第3回	下肢装具①：部品	第18回	大腿義足（演習）
第4回	下肢装具②：適合判定	第19回	
第5回	下肢装具③：適応疾患（演習）	第20回	下腿義足・サイム義足
第6回		第21回	
第7回	下肢装具④：靴の補正	第22回	義足異常歩行（演習）
第8回		第23回	
第9回	上肢装具と適応疾患（演習）	第24回	義手
第10回		第25回	
第11回	体幹装具と適応疾患（演習）	第26回	義肢学 まとめ（演習）
第12回		第27回	
第13回	装具学まとめ	第28回	総括
第14回		第29回	
第15回	義肢学総論	第30回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記）90% レポート10%		
準備学習	教科書を用いて、各回の内容の範囲を確認してください		
事後学習	その日のうちに疑問点を解決できるように復習を忘れずにしてください。		
教科書	高田 治実 監：「義肢・装具学 異常とその対応がわかる動画付き第2版」羊土社		
オフィスアワー	木曜日の16:00～16:30、職員室 メールアドレス：yahara@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	切断者、装具使用者の動作分析の実務経験を有する。その経験から、基礎的な内容理解について指導する。		

授業科目	整形外科理学療法 I	科目担当者	中野 浩志
学年	2 年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。本講義では骨折、脱臼、リウマチ、脊髄損傷を中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①骨折・脱臼およびリウマチ、脊髄損傷の病態について説明できる。 ②骨折・脱臼およびリウマチに対する理学療法の概要について説明できる。 ③脊髄損傷に対する理学療法について説明できる。		

授業計画	内 容		
第 1 回	骨折脱臼総論	第 16 回	脊髄損傷に対する理学療法
第 2 回		第 17 回	(レベル別概要)
第 3 回	運動器画像の読み方 (MRI、CT、X線、エコー) 含む	第 18 回	脊髄損傷に対する機能障害の評価 (実技演習)
第 4 回		第 19 回	
第 5 回	上肢骨折に対する理学療法 (実技演習)	第 20 回	脊髄損傷に対する能力障害・生活環境の評価 (実技演習)
第 6 回		第 21 回	
第 7 回	下肢骨折に対する理学療法 (実技演習)	第 22 回	施設見学 (総合せき損センター)
第 8 回		第 23 回	
第 9 回	大腿骨頸部骨折に対する理学療法	第 24 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 10 回	リウマチに対する理学療法	第 25 回	(起座・寝返り・座位バランス・起立訓練)
第 11 回	骨折脱臼・疾患別まとめ	第 26 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 12 回	脊髄損傷 (疫学・病因・病態)	第 27 回	(トランスファー・車椅子操作)
第 13 回		第 28 回	脊髄損傷に対する理学療法 (実技演習)
第 14 回	脊髄損傷	第 29 回	(歩行訓練・応用歩行訓練・転倒訓練)
第 15 回	(自律神経障害・特殊な脊髄損傷)	第 30 回	脊髄損傷まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記 50%、実技 20%)、小テスト 30%		
準備学習	各疾患の特徴を理解し、イメージ出来るようにしましょう。		
事後学習	疾患を通してその病態・評価・理学療法の方法をイメージし、日々の復習を大事にしましょう。		
教科書	千住 秀明 監:「運動器疾患の理学療法第 1 版」神陵文庫 神奈川県リハビリテーション病院脊髄損傷マニュアル編集委員会:「脊髄損傷リハビリテーションマニュアル第 3 版」医学書院		
参考書	岩崎 洋 編:「脊髄損傷理学療法マニュアル第 3 版」文光堂		
オフィスアワー	水曜日の 16:00~17:00、職員室 メールアドレス: nakano@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	病院・クリニックでの臨床経験を活かし、骨折および脊髄損傷の病態について理解し、実技を交えた授業を行う。		

授業科目	整形外科理学療法Ⅱ	科目担当者	矢原 友成・市木 里佳
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	整形外科理学療法Ⅰに続き、これまで学んだ知識を集約し、各関節における機能解剖、評価方法、実際の理学療法を通じ、より実践的な理学療法の内容を学習する。またケースレポートを実施し、統合と解釈から問題点抽出、ゴール設定、プログラム立案と実施までの理学療法の一連の過程を学習する。そのためにパワーポイントを用いたプレゼンテーションを中心にまずは理論を講義形式で学習し、実践できるように演習形式で実技を学習する。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①解剖学や運動学等で学習した知識・技術の復習をもとに機能解剖学について理解できる。 ②部位別・疾患別における各々の病態把握ができる。 ③評価・理学療法に関して確実に身につけることができる。		

授業計画	内 容		
第1回	肩関節の機能解剖 (市木)	第16回	(骨、筋、関節、メカニズム) (市木)
第2回	(骨、筋、関節、メカニズム)	第17回	膝関節疾患の理学療法評価 (市木)
第3回	肩関節疾患の理学療法評価 (市木) 画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む	第18回	画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む (実技演習)
第4回	(実技演習)	第19回	膝関節疾患の理学療法 (市木)
第5回	肩関節疾患の理学療法 (市木)	第20回	基礎 疾患別応用 (実技演習)
第6回	基礎 疾患別応用 (実技演習)	第21回	脊柱の機能解剖 (矢原)
第7回	肩関節疾患の理学療法 (市木)	第22回	(骨、筋、関節、メカニズム)
第8回	(ケーススタディ)	第23回	脊柱の評価 画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む (実技演習) (矢原)
第9回	股関節の機能解剖 (矢原)	第24回	脊柱疾患の理学療法評価 (矢原)
第10回	(骨、筋、関節、メカニズム)	第25回	理学療法評価、プログラム立案 (実技演習)
第11回	股関節の評価 (矢原)	第26回	脊柱疾患の理学療法 (矢原)
第12回	画像所見 (MRI、CT、X線、エコー) 含む (実技演習)	第27回	基礎 疾患別応用 (実技演習)
第13回	股関節疾患の理学療法 (矢原)	第28回	
第14回	基礎 疾患別応用 (実技演習)	第29回	総括 (矢原、市木)
第15回	膝関節の機能解剖 (市木)	第30回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 90%、レポート 10%		
準備学習	整形外科疾患の知識や筋・骨関節の解剖を復習してください。		
事後学習	多様な思考や解釈できる学習をして欲しい。各実習に向け臨時的な知識・技術を習得すること。		
教科書	奈良 勲 監：「標準理学療法学運動療法学各論第4版」医学書院		
参考書	配布資料		
オフィスアワー	木曜日の16:00~16:30、職員室 メールアドレス：yahara@tohaya.ac.jp、 ichigi@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	整形外科における理学療法士の実務を通して、臨床で担当する機会の多い各疾患における病態を学び、評価、アプローチ方法について提供する。		

授業科目	中枢神経障害理学療法 I	科目担当者	竹本 美咲
学年	2年	学期/時間数	前期 / 60 時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2 単位
授業の概要と方法	脳血管障害は理学療法の主要な対象疾患であり、基礎的な脳の機能解剖をはじめ、脳血管障害の分類や症状、一般的治療、評価、診断について理解する必要がある。本科目では、写真や動画、模型などを積極的に用いながら講義をすすめる。また隔週での小テストを行い脳血管障害の理学療法を行うための基盤となる知識を構築していく。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①脳に興味を持ち、脳の理解を深めることができる。 ②脳血管障害の基礎を理解できる。 ③中枢神経障害理学療法Ⅱへと繋がる知識を身に付けることができる。		

授業計画	内 容	
第 1 回	脳の機能解剖 : 大脳 (演習)	第 16 回 脳卒中の概要 : くも膜下出血 (演習)
第 2 回	脳の機能解剖 : 大脳基底核 (演習)	第 17 回 脳卒中の概要 : 高次脳機能障害 (演習)
第 3 回	脳の機能解剖 : 大脳辺縁系 間脳 (演習)	第 18 回 脳卒中の概要 : 頭部外傷 認知症 (演習)
第 4 回	脳の機能解剖 : 小脳・脳幹 (演習)	第 19 回 脳卒中の概要 : まとめ (演習)
第 5 回	脳の機能解剖 : 脊髄・脳循環 (演習)	第 20 回
第 6 回	脳の機能解剖 : 伝導路 (演習)	第 21 回 脳卒中の評価 : 一般的評価 (実技演習)
第 7 回	脳の機能解剖 : 血管系 (演習)	第 22 回 脳卒中の評価 : 総合評価 (実技演習)
第 8 回		第 23 回 脳卒中の評価 : 脳画像 (CT) (演習)
第 9 回	脳の機能解剖 : まとめ (演習)	第 24 回 脳卒中の評価 : 脳画像 (MRI) (演習)
第 10 回		第 25 回 脳卒中の評価 : 脳画像の診かた (演習)
第 11 回	脳卒中の概要 : 総論 (演習)	第 26 回
第 12 回	脳卒中の概要 : 脳出血 (演習)	第 27 回 脳卒中の評価 : まとめ (演習)
第 13 回		第 28 回
第 14 回	脳卒中の概要 : 脳梗塞 (演習)	第 29 回
第 15 回		第 30 回
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期 (筆記) 70%、小テスト 30%	
準備学習	教科書の内容を事前に熟読しておいてください。	
事後学習	隔週での小テストを実施するため、毎回の復習を行いましょう。	
教科書	医療情報科学研究所編:「病気がみえる Vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア 配布資料	
参考書	酒向 正春・大村 優慈 著:「リハに役立つ脳画像 改訂第2版」MEDICALVIEW	
オフィスアワー	金曜日の 16:10~17:30、職員室 メールアドレス: takemoto@tohaya.ac.jp	
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務	
実務経験を活かした 教育内容	国家試験・臨床に対応できる知識を身に付けるため、基盤となる機能解剖の習得を徹底し、臨床像と脳画像との関連がイメージできる授業を行う。	

授業科目	中枢神経障害理学療法Ⅱ	科目担当者	竹本 美咲
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	脳血管障害はその病型や病期によって関わりが異なる。脳血管障害理学療法Ⅰで得た基礎知識を基に、病型別・病期別のリスク管理や実際の理学療法、生活支援などを学ぶ。 本科目では、実技やケーススタディ、ディスカッションを実施し、脳血管障害に対するリハビリテーションの理解を深め臨床力を構築していく。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	① 脳血管障害の障害像をイメージできる。 ② 病型別・病期別の脳血管障害のリハビリテーションを理解できる。 ③ 症例ごとの違いを理解し、適切な理学療法を考案・実施することができる。		

授業計画	内 容		
第1回	総論	第16回	回復期の理学療法⑥歩行（理学療法の実際）
第2回	急性期の理学療法①病型別治療	第17回	(演習)
第3回	急性期の理学療法②リスク管理（演習）	第18回	回復期の理学療法⑦歩行（異常歩行）
第4回		第19回	(演習)
第5回	急性期の理学療法③体位変換（演習）	第20回	ケーススタディ①
第6回	急性期の理学療法④関節可動域練習 (演習)	第21回	統合と解釈 (演習)
第7回		第22回	ケーススタディ②
第8回	急性期の理学療法⑤離床 (演習)	第23回	問題点抽出、ゴール設定 (演習)
第9回	回復期の理学療法①寝返り (演習)	第24回	ケーススタディ③
第10回	回復期の理学療法②起き上がり (演習)	第25回	プログラム立案、プログラム実施 (演習)
第11回	回復期の理学療法③座位 (演習)	第26回	生活期の理学療法（片麻痺のADL）
第12回	回復期の理学療法④立ち上がり (演習)	第27回	合併症（嚥下障害と上肢障害）
第13回	回復期の理学療法⑤立位 (演習)	第28回	外傷性脳損傷
第14回	回復期の理学療法⑥歩行（下肢装具） (演習)	第29回	まとめ
第15回		第30回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記70%、実技30%）		
準備学習	教科書や資料に目を通し、脳血管疾患がイメージできるようにしましょう。		
事後学習	積極的・主体的なディスカッションを行い、脳血管障害の障害像や臨床推論を理解するよう努めましょう。		
教科書	千田 富義・高見 彰淑・他 編：「リハ実践テクニック 脳卒中 改訂第3版」MEDICALVIEW		
参考書	特になし		
オフィスアワー	金曜日の16:10~17:30、職員室 メールアドレス：takemoto@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	脳血管障害の各時期で具体的な症例を提示し、理学療法評価や脳画像など様々な情報を基に患者像を把握、個々の問題点を解決するための理学療法についてディスカッションし、臨床的思考を深めていく。		

授業科目	神経・筋障害理学療法	科目担当者	竹本 美咲
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	神経変性疾患の多くは複雑な障害像を呈することが知られており、それぞれの疾患における病態や病理所見、代表的な症状、理学療法などを理解する必要がある。この科目では、パーキンソン病など主要な神経変性疾患を中心に、グループ学習・ディスカッションを積極的に行いながら疾患に対する理解をより深めていくと共に理学療法の基礎を学ぶ。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①主要な神経変性疾患の病態や症状を理解できる。 ②病期別のリハビリテーションを理解できる。 ③疾患についての知識を共有することができる。		

授業計画	内 容		
第1回	神経筋障害総論	第16回	運動失調症 まとめ
第2回	パーキンソン病とは	第17回	筋萎縮性側索硬化症とは
第3回	パーキンソン病の治療	第18回	筋萎縮性側索硬化症 (グループ演習)
第4回	パーキンソン病とは・治療 (グループ演習)	第19回	筋萎縮性側索硬化症 まとめ
第5回	パーキンソン病の評価	第20回	多発性硬化症
第6回	パーキンソン病の評価 (実技演習)	第21回	多発性硬化症 (グループ演習)
第7回	パーキンソン病の理学療法	第22回	筋ジストロフィー
第8回	パーキンソン病の理学療法 (実技演習)	第23回	筋ジストロフィー (グループ演習)
第9回	パーキンソン病 まとめ	第24回	ギランバレー症候群・重症筋無力症
第10回	運動失調症とは	第25回	ギランバレー症候群・重症筋無力症 (グループ演習)
第11回	運動失調症とは (グループ演習)	第26回	多発性硬化症・筋ジストロフィー・ギランバレー症候群・重症筋無力症 まとめ
第12回	運動失調症の評価	第27回	多発筋炎などその他の疾患
第13回	運動失調症の評価 (実技演習)	第28回	その他の疾患 (グループ演習)
第14回	運動失調症の理学療法	第29回	まとめ
第15回	運動失調症の評価 (実技演習)	第30回	
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 70%、小テスト 30%		
準備学習	各疾患の病態や経過など、事前に教科書を熟読しておいてください。		
事後学習	単元ごとに小テストを実施します。各疾患の障害像をイメージし、それぞれの違いの理解に努めてください。		
教科書	医療情報科学研究所 編:「病気がみえる Vol.7 脳・神経第2版」メディックメディア		
参考書	特になし		
オフィスアワー	金曜日の16:10~17:30、職員室 メールアドレス: takemoto@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした教育内容	経過と共に心身の健康度が低下する変性疾患に対し、理学療法を駆使してADL、QOLをいかに維持するか、患者の心理、家族の思いにどう寄り添うか学生と考えていく。		

授業科目	発達障害理学療法	科目担当者	近藤 直樹／松坂 洋一
学年	2年	学期/時間数	後期/30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	小児期の運動障害および発達障害に対する理学療法の基礎を学習する。脳性麻痺児・者を中心にその他の肢体不自由児の障害特性や評価方法の実際に至るまでの発達学的な考え方及び知識を深める。同時にチーム医療や小児期の福祉制度についても演習をまじえながら学習する。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> その他(中間テスト)		
到達目標	① 小児療育の概要や脳性麻痺の疾患特性について知識を深めることができる。 ② 脳性麻痺の理学療法評価・治療について学習することができる。 ③ 重症心身障害の理学療法評価・治療について学習することができる。 ④ 小児整形外科疾患の理学療法評価・治療について学習することができる。 ⑤ 小児整形外科治療について学習することができる。 ⑥ 小児神経筋疾患の理学療法評価・治療について学習することができる。 ⑦ 自閉症スペクトラム症など発達障害における理学療法評価・治療について学習することができる。		

授業計画	内 容	
第1回	発達障害理学療法 概論	(担当:近藤 直樹)
第2回	脳性麻痺総論(定義, 病型分類, 麻痺部位, 二次障害)	(担当:近藤 直樹)
第3回	理学療法評価①:小児理学療法で対象とする理学療法評価	(担当:近藤 直樹)
第4回	理学療法評価②:脳性麻痺に対する理学療法評価	(担当:近藤 直樹)
第5回	脳性麻痺の理学療法:痙直型	(担当:近藤 直樹)
第6回	脳性麻痺の理学療法:アトトーゼ型	(担当:近藤 直樹)
第7回	重症心身障害の理学療法	(担当:近藤 直樹)
第8回	中間テスト	
第9回	小児整形外科疾患の理学療法	(担当:松坂 洋一)
第10回	小児整形外科治療における理学療法	(担当:松坂 洋一)
第11回	小児神経筋疾患の理学療法:筋ジストロフィー	(担当:松坂 洋一)
第12回	小児神経筋疾患の理学療法:脊髄性筋萎縮症	(担当:松坂 洋一)
第13回	発達障害の理学療法:自閉スペクトラム症等	(担当:松坂 洋一)
第14回	演習/症例検討①:脳性麻痺の病型と麻痺部位の分類	(担当:松坂 洋一 近藤 直樹)
第15回	演習/症例検討②:脳性麻痺の重症度分類	(担当:松坂 洋一 近藤 直樹)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験(筆記)90%、授業中の取組み10%	
準備学習	授業前に教科書の範囲を熟読しておくこと	
事後学習	授業中に配布する資料を復習しておくこと	
教科書	細田 多穂・他:「小児理学療法学テキスト第3版」南江堂 授業の中で、適宜、資料を配布する	
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務中	
オフィスアワー	授業終了後、講師控室 メールアドレス:kita-reha@tohaya.ac.jp(学院窓口)	

授業科目	内部疾患理学療法Ⅱ	科目担当者	野口 敦
学年	2年	学期/時間数	後期 / 60時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	2単位
授業の概要と方法	内部疾患に対して適切な理学療法を実施するためには、必要とされる評価項目の選択と実施、その結果から問題点の抽出、障害の解釈、それらに基づいた運動療法が必要となる。 本授業では、代謝疾患、心疾患、血管疾患、腎疾患、がんを中心にこれらの一連の過程について基礎となる知識及び技術を習得する。方法は、教科書、配布資料を中心に授業を行い、他にレポート課題および演習を行う。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 心臓・代謝・血管・腎・がんに対する評価と理学療法について理解できる。 2 基本的な評価法、理学療法治療を理解し、臨床応用できる。 3 理学療法実施時のリスク管理を学ぶことができる。 		

授業計画	内 容		
第 1 回	肥満、メボリックシンドロームの病態について	第 16 回	各種不整脈の特徴と PT の対応 (演習)
第 2 回	メボリックシンドロームの評価と理学療法 (演習)	第 17 回	急性心筋梗塞の各検査 (画像) ・評価
第 3 回	糖尿病の病態、薬理について	第 18 回	心肺運動負荷試験
第 4 回	糖尿病の障害理解と運動	第 19 回	急性期心臓リハと理学療法
第 5 回	糖尿病の理学療法 (演習)	第 20 回	急性期心臓リハと理学療法 (演習)
第 6 回	腎疾患・腎機能障害の病態、薬理	第 21 回	回復期心臓リハと理学療法
第 7 回	腎機能障害の評価と理学療法 (演習)	第 22 回	回復期心臓リハと理学療法 (演習)
第 8 回	がんの病態、薬理、治療における有害事象	第 23 回	心不全の病態、薬理、代償機構の破綻
第 9 回	がんの理学療法評価 (画像所見) (演習)	第 24 回	心不全患者の理学療法 (演習)
第 10 回	がんの理学療法 (演習)	第 25 回	心肺運動負荷試験の実際 (演習)
第 11 回	心臓の機能解剖	第 26 回	末梢動脈疾患の病態、画像、治療
第 12 回	心臓の機能解剖	第 27 回	大動脈疾患の病態、画像、治療
第 13 回	急性心筋梗塞・狭心症の病態、治療、薬理	第 28 回	動脈疾患の評価・理学療法 (演習)
第 14 回	心筋梗塞・狭心症の心電図 (演習)	第 29 回	講義まとめ (NB、物語に基づく理学療法)
第 15 回	各種不整脈の特徴と PT の対応 (演習)	第 30 回	演習まとめ (内部疾患における他疾患併存)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記) 40%、小テスト 40%、課題 20%		
準備学習	事前に教科書に目を通す。		
事後学習	わからないところは解剖学、生理学の教科書を再度確認する。		
教科書	高橋 哲也 編:「最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学」 医歯薬出版		
参考書	細田 多穂 監:「内部障害理学療法学テキスト 第4版」 南江堂		
オフィスアワー	火、水、金曜日の 16:30~17:30、職員室 メールアドレス: noguchi@tohaya.ac.jp		
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務		
実務経験を活かした 教育内容	様々な症状を有する循環器疾患、その他の内部疾患について、各病期における治療法や運動療法について運動生理学をベースに実技も含め実践的に提供する。		

授業科目	高齢者理学療法学	科目担当者	野口 敦
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	我が国の高齢化率は、世界に類を見ない速さで進行している。総人口の30%が高齢者となる時代が迫ってくる。理学療法の臨床においても高齢の対象者は、益々増加して遭遇する頻度は多い。 ここでは、高齢者の特徴を始めとして、複合疾患を有する病態像を理解する。また高齢者の心理など精神面についてその特徴を理解する。 なお、課題を提示し、グループ毎にまとめ、プレゼンテーション発表を行う。		
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①高齢者の特徴を理解することができる。 ②高齢者の心身機能の変化を理解することができる。 ③高齢期の理学療法を理解し実施できるようになる。		

授業計画	内 容
第1回	総論 : 高齢者の定義と現状
第2回	高齢者の特徴① : 老年症候群
第3回	高齢者の特徴② : 老化、高齢者にみられる代表的な症候
第4回	高齢者の特徴③ : 廃用症候群、寝たきり
第5回	高齢者の特徴④ : サルコペニアとフレイル、栄養管理(リハビリテーション栄養含む)
第6回	グループワーク(討議・演習) 各テーマを提示、担当を決め、調べる
第7回	グループワーク(討議・演習) 各テーマについて、調べた内容を集約し、発表資料を作成する
第8回	発表 7分程度の発表、質疑応答8分程度、最大15分程度の内容
第9回	加齢に伴う身体的変化 : 呼吸器系・循環器系・消化吸収機能・排泄機能・運動機能・感覚機能・神経機能・他
第10回	加齢に伴う変化① : 体力 体力テスト(演習)
第11回	加齢に伴う変化② : 歩行、心理
第12回	高齢者の評価 : 運動機能(筋力、歩行能力、バランス機能)、生活機能(ADL) (演習)
第13回	高齢者に対する理学療法① (演習) 筋力トレーニング、バランストレーニング、持久力・歩行トレーニング
第14回	高齢者に対する理学療法② (演習) 認知症、コグニサイズ、回想法
第15回	その他の高齢者に対する理学療法: 低栄養に対して、誤嚥に対して まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験(筆記)70% 提出物10% 発表(内容を含む)20%
準備学習	事前に教科書に目を通す。
事後学習	高齢者に特徴的な生理学的変化をしっかりと復習する。
教科書	池添 冬芽 編:「高齢者理学療法学」メジカルビュー社
参考書	島田 裕之・他 編:「高齢者理学療法学」医歯薬出版
オフィスアワー	火、水、金曜日の16:30~17:30、職員室 メールアドレス:noguchi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	高齢者の特徴を紹介して、理学療法の専門的観点から高齢者理学療法の介入方法を講義演習を通じて授業を行う。

授業科目	スポーツ理学療法	科目担当者	市木 里佳
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	スポーツ場面におけるチーム医療の中で理学療法士が果たす役割を学習する。医療機関におけるリハビリテーション、およびスポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションを学習する。スポーツ外傷・障害に限らず、骨・関節疾患の評価を学習し、理学療法プログラムを立案・実施する技術を学習する。パラスポーツの現状やパラアスリートとの関わり方についても学習する。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①スポーツ選手を取り巻く環境を理解し、理学療法士の役割について説明できる。 ②関節および疾患ごとに、適切な評価を実施できる。 ③骨・関節疾患を評価し、理学療法を実施するために必要な解剖について説明できる。 ④バイオメカニクスとスポーツ理学療法との関連について説明できる。 ⑤スポーツ選手の体調の調整および再調整方法を理解できる。 ⑥パラスポーツについての理解と理学療法士との関わり方について理解する。		

授業計画	内 容
第1回	スポーツ理学療法 総論
第2回	スポーツ外傷・障害の理解
第3回	上肢のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習）
第4回	下肢のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習）
第5回	体幹のスポーツ外傷の発生機序と理学療法（実技演習）
第6回	上肢のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習）
第7回	下肢のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習）
第8回	体幹のスポーツ障害の発生機序と理学療法（実技演習）
第9回	成長期のスポーツ外傷・障害（実技演習）
第10回	テーピング総論
第11回	テーピング演習①（非伸縮テープ・伸縮テープ）（実技演習）
第12回	テーピング演習②（キネシオテープ）（実技演習）
第13回	女性アスリートへの対応と特徴
第14回	障がい者スポーツ総論
第15回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験（筆記70%、実技30%）
準備学習	スポーツ整形外科や整形外科理学療法および理学療法評価学の知識を復習してください。
事後学習	バイオメカニクスを中心に他科目との繋がりを理解し、評価方法や理学療法の学習をしてください。
教科書	陶山 哲夫・赤坂 清和：「スポーツ理学療法学—動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方—改訂第2版」MEDICAL VIEW
参考書	配布資料
オフィスアワー	月～金曜日の16:10～17:30、職員室 メールアドレス：ichigi@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	急性期からスポーツ復帰までの流れの他、理学療法評価および理学療法の提供における現場経験を交えて講義する。

授業科目	日常生活活動Ⅱ	科目担当者	大島 秀明
学年	2年	学期/時間数	後期 / 30時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習	単位数	1単位
授業の概要と方法	日常生活活動Ⅰで学んだ基本動作をはじめ、食事や排泄など生命維持活動、家事や交通手段の利用などの社会的活動の基礎知識をもとに、その実際と指導法を実技中心に経験し修得する。また臨床現場で活用できるように各対象者の疾患に対応した支援と指導の方法について学習する。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①日常生活活動Ⅰで修得した知識に基づき実践することができる。 ②ADL 評価を的確に実施することができる。 ③ADL に影響をおよぼす代表的な疾患の特徴を把握しそれぞれの生活場면을想起し支援と指導ができる。		

授業計画	内 容
第 1 回	ADL 評価の実際 (FIM、BI) (演習)
第 2 回	床上動作 (寝返り、起き上がり、立ち上がり) (演習)
第 3 回	基本動作 (移動) の理論
第 4 回	基本動作 (移動) の指導法 (演習)
第 5 回	基本動作 (移乗) の理論と指導法 (演習)
第 6 回	セルフケア (食事、排泄、更衣、整容、入浴) の実際 (演習)
第 7 回	整形外科疾患 (リウマチ) の ADL 指導と介助 (演習)
第 8 回	整形外科疾患 (THA) の ADL 指導と介助 (演習)
第 9 回	切断の ADL 指導と介助 (演習)
第 10 回	脊損の ADL 指導と介助 (演習)
第 11 回	片麻痺の ADL 指導と介助 (演習)
第 12 回	生活環境の評価 (演習)
第 13 回	住宅改修・環境調整 (演習)
第 14 回	バリアフリーとユニバーサルデザイン (社会環境、住環境、家屋改造) の実際 (演習)
第 15 回	まとめ
成績評価の方法 [評価項目と割合]	定期試験 (筆記 70%、実技 30%)
準備学習	日常生活活動Ⅰの授業内容と合わせ、疾患別では関連する科目の内容を確認すること
事後学習	理解の習熟のため、内容に沿って実技練習を行うこと
教科書	鶴見 隆正・他 編：「標準理学療法学日常生活活動学・生活環境学 第 6 版」医学書院 配布資料
参考書	
オフィスアワー	月・火曜日の 16:00～17:30、職員室 メールアドレス：oshima@tohaya.ac.jp
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	対象者の生活・人生を考えながら学ぶ科目であることを常に指導していく。また、イメージしやすいよう ADL への介入が必要であった具体例なども踏まえて講義する。

授業科目	臨床実習	科目担当者	中野浩志・大島秀明・矢原友成 竹本美咲・野口敦・市木里佳
学年	3年	学期/時間数	前期 / 855時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	単位数	19単位
授業の概要と方法	臨床実習は学院で修得した知識や技能を手がかりに、学内演習では経験できない実践環境でより一層の理解を深めるための教育機会である。実習指導者の教育的支援の下で対象者のためを考え、対象者と実習指導者から実践を通して、理学療法士としてのプロフェッショナリズムを学ぶ。実習構成は評価実習と総合臨床実習とし、それぞれの到達目標を達成するために、臨床現場における実習を実施する。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	理学療法士となるために必要な知識、技術を習得し、合わせて医療従事者としての豊かな人格を育成する。評価実習では、対象者への適切なリスク管理、検査測定技術を学ぶ。また目標設定、必要なプログラム立案ができるように評価能力を身につける。 総合臨床実習では、評価実習で学んだことを基に、プログラム実施を通じて治療・指導・援助ができる技能を身につける。		

授業計画	内 容
	臨床実習オリエンテーション (医療倫理、理学療法における倫理、安全管理、感染予防、個人情報保護、情報管理、事故・過誤の対応) 【評価実習】 (検査・測定、問題点の抽出、全体像の把握、目標の設定、治療プログラム立案、記録・報告) 令和6年 4月 8日(月)～ 4月 27日(土) 3週間 CBT 令和6年 4月 3日(水) (実習前知識技能評価) Pre OSCE 令和6年 4月 4日(木) (実習前評価) Post OSCE 令和6年 5月 2日(木) (実習後評価) 【総合臨床実習】 (検査・測定、問題点の抽出、全体像の把握、目標の設定、治療プログラム立案、他部門との連携、記録・報告) 第1期: 令和6年 5月 13日(月)～ 7月 6日(土) 8週間 第2期: 令和6年 7月 15日(月)～ 9月 7日(土) 8週間 Pre OSCE 令和6年 5月 9日(木) (実習前評価) Post OSCE 令和6年 9月 9日(月) (実習後評価)
成績評価の方法 [評価項目と割合]	診療参加型臨床実習チェックリスト、提出物などを総合的に評価する。
準備学習	学内で学んできた基礎的な知識をもとに、理学療法の臨床実践をしっかりと学んでください。 臨床で経験するすべての事柄が貴重な学習の場であることを理解して真剣に取り組むことを期待します。
事後学習	臨床実習を通して学んだことを復習し、臨床で活かせる知識となるように頑張ってください。
教科書	臨床実習録1年次、2年次までの全ての科目で用いた配布資料・教科書
参考書	
オフィスアワー	実習終了後随時
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。

授業科目	地域理学療法実習	科目担当者	矢原友成・大島秀明・中野浩志 竹本美咲・野口敦・市木里佳
学年	2年	学期/時間数	後期 / 45時間
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実習	単位数	単位
授業の概要と方法	通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションの現場を、見学を通して経験することで対象者の状態や地域での生活支援を把握するとともに、対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること、診療チームの一員としての理学療法士としての役割について学ぶ。学内演習における理学療法評価学や理学療法治療学において得られた知識を、実際の現場で見学し、臨床実習に繋げ、問題解決能力を養うものである。		
	アクティブラーニング <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> その他()		
到達目標	①対象者とのコミュニケーションを経験する。 ②スタンダードプリコーションが実施できる。 ③通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学する。 ④通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法の一部を経験する。 ⑤ケアプラン立案過程を見学する。		

授業計画	内 容
	地域実習オリエンテーション (医療倫理、理学療法における倫理、安全管理、感染予防、個人情報保護、情報管理、事故・過誤の対応、対人関係技法、医療面接) 【 地域実習 】 ・情報収集 ・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割の理解 ・多職種による協働 ・ケアプラン作成 令和6年11月11日(月)~15日(金)の5日間を実習期間とし、各施設で見学実習を実施する。
成績評価の方法 [評価項目と割合]	理学療法実習チェックリスト、提出物などを総合的に評価する。
準備学習	地域実習録を熟読してください。
事後学習	コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを学び理学療法の一部を経験し、今後の学習に活用してください。
教科書	特になし。実習録を活用し概要説明する。
参考書	
オフィスアワー	
教員の実務経験	医療機関で理学療法士として勤務
実務経験を活かした 教育内容	実践に即した実習のため、臨床実習指導者と連携して指導を行う。